



昭和42年度指定 高指第3号

(故)西村 外茂吉

【雅号】義光 よしみつ

生年／明治32年 指定技術名／銅器・彫金



ほうそうげ「はくほうこうろ」

宝相華「白鳳香炉」

東京で彫金全般の技術・技法を習得する。なかでも、打出鋤彫技術に優れた技を有し、薄肉の製品を主に制作する。原型から製品づくりまで携わり、作品写真もその一つで香炉としては特徴的な意匠をしている。胴の部分の鳳凰は打出鋤彫技法を用い仕上げられ、金、銀の素材を効果的に使った象嵌となっている。

昭和48年作

素材・技法／青銅・焼型鑄造、打出鋤彫、象嵌
寸法／高さ22cm×幅17.5cm×奥行13cm

〔表彰・受賞歴〕

大正 5年 農商務省工芸展覧会出品
(以後、数回)
昭和47年 卓越した技能者(現代の名工)表彰
昭和48年 勲六等瑞宝章

〔経歴〕

大正 2年 富山県工業試験場設立当初、金工科助手として学んだ後、上京し関義嶂氏に師事し彫金技術を習得。その後帰高、独立自営
昭和43年 高岡市伝統工芸産業技術保持者指定